

ひばりクリニックでの実習を終えて (2020/2/3~2/7)

自治医科大学医学部 5年 畑田奈津実

大学の選択実習の機会に5日間ひばりクリニックで実習をさせていただきました。ひばりクリニックでの外来見学、訪問診療、往診だけでなく、うりずんでの研修、病児保育かいつぶりの見学など、多くの場に参加させていただき、大変有意義な時間を過ごすことができました。実習を通して感じたこと、学んだことは非常に多かったのですが、以下に少しだけまとめました。

何でも相談できる関係性

高齢者から小児まで幅広く、また疾患も ALS やターミナル、交通外傷後、先天性疾患などさまざまでした。高橋先生の訪問診療では非常に会話を大切にされていました。一件一件の診察が本当に丁寧で、ここまでしっかり時間をとって訪問している先生は今までで初めてだと思います。日頃の様子をきちんと知っておかなければ変化に気づけません。いつまでトイレに一人で行けていたか、どこまで歩いて行けていたか、ご家族の様子に変化はないか、世間話を通してさまざまな視点で見ているようでした。また、腰を据えてしっかりお話を聞くので、患者さんもご家族も先生に何でも相談できるという関係性ができていたと思います。いつも笑顔であふれており、とてもあたたかい診察時間でした。みなさんの先生への信頼と安心がうかがえました。

小児の在宅医療

先生はユニークな訪問をされます。小児の在宅訪問の際には、かわいい(ときにはこわい?)被り物をしていきます。今回、私の実習期間は節分だったので、鬼の格好をして訪問していました。私も被り物と金棒を携えてご一緒させていただきました。少しでも楽しい時間になるようにと、その思いが非常に感じられました。医療的ケア児の家族は、どうしても厳しい生活を余儀なくされます。先生は「障害をもつ子を育てる親御さんがなぜこんなにも苦労しなければならないのか」と切なそうに話されていました。まともな睡眠時間も、外へ遊びに行くような自分の時間もとれてない親御さんも多く、またその兄弟たちも我慢しなければならぬことが多い日々を過ごしていると聞きます。訪問の様子からはそんな方々の不安や悩みを少しでもなくしてあげたいという気持ちが伺えました。

親御さんの不安

生まれたときから重度の障害があり、ずっと頑張って介護してきた親御さん。しかし、やがて介護者も歳をとっていきます。健康な状態がいつまでも続くとは限らず、突然倒れるかもしれません。そうなったとき、誰がかわりになるのか。一生懸命に我が子を育ててきた親御さんが介護できない状況になったとき、誰にかわったとしてもまったく同じだけのケアは難しいと思います。「自分たちに何かあったときどうしよう」という不安を抱いているご家庭はたくさんあると思いました。私はこの実習まで「主介護者が突然いなくなったとき、

どうなるのか」と考えたことはありませんでした。将来、自分も訪問診療等で何年も関わっていくご家族が出てくるかもしれません。そのとき、この点については考えておく必要があると思いました。そして、このような不安を感じることなくご家族が過ごせる社会体制が整うためにはどうすればよいのかと考える機会になりました。

実習を終えて

ひばりクリニックでの5日間の実習では、医学的なことよりも社会的な面や家庭での様子などを中心に考える経験できたかなと思います。訪問診療でいろいろなご家庭をみたり、うりずんで重度の障害をもって生きている人々と関わり、幸せとは身体健康だけではないと、そう心から思いました。うりずんでは重症の疾患を患いながらもみんなから愛されている子どもたちがいました。公衆衛生でも WHO の健康の定義は身体、精神、社会の要素があると習いましたが、その身体以外の要素の大きさを痛感する実習でした。どんな障害があっても、病気でも、当人が幸せかどうか、それは身体だけでは決まりません。そんな境遇の子たちは不幸せだとか、かわいそうだとか、そんなことはまったくありませんでした。もちろん今のように笑って過ごせるまでには大変なご苦労があったかと思いますが、周囲の環境次第で過ごしやすさは大きく変わると感じました。そしてその環境作りをお手伝いしている NPO 法人うりずん様は本当に素晴らしいと思いました。

最後になりましたが、ご指導いただきました先生方、スタッフの皆様、実習生を受け入れてくださった地域の皆様、本当にありがとうございました。今後は、この機会に感じることでできた人として大切なものを忘れずに、親しみやすい医師になるべく励んでいきたいと思えます。